

中日友好医院

（ア）中日友好医院の概要

中日友好医院は日本政府の無償資金援助によって、両国政府が共同で建てた大規模総合病院である。1984年に開院し、中国衛生部に直轄管理されている。病院は北京市朝陽区に位置し、建築面積は18万㎡、ベッド数は1,500である。68の臨床、メディカル部門が設置され、中日友好臨床医学研究所と人材育成センターが設置されている。2010年に国家衛生応急チームの基幹病院に指定され、1993年に国家三級甲病院に選ばれ、その後北京市「トップ10病院」と全国「トップ100病院」に指名された。

（イ）MRI検査の紹介についての医師のコメント

・ **医師がERISAのMRI検査を取り扱うためには医療機器認証が必要**。また、**予防介入の準備をした上でないと、中日友好医院としての取り扱いは不可**。同病院の神経内科との共同研究等は可能であり、準備が整い次第、再度アポを依頼する。

・ 日本での実績を積んだ上で、中日友好医院において放射線科との共同研究でテストを行うという流れならば動きやすい。**中国のユーザーへ提供するうえでは、分析結果として目に見える現状評価と今後の対策（アドバイス）が必要**。健診への組込みにおいてもアドバイスが必要となる。検査後クライアントから来そうな質問に回答を用意する必要がある。サービスとしての設計や科学的なエビデンスが必要。

・ 企業から医師に提案するよりは、病院の先生から広まるのが理想。ただし、現時点の開発状況では、脳ドックへのトライアルについて医師から勧めることは難しい。取組としては新しい技術であり、啓蒙フォーラム等を実施した方が良い。

・ 別荘に住む高所得者をターゲットとすると良いリソースになる（別荘には相談員が常駐している）。